

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホーム よつば荘		
所在地	宮城県美里町北浦一丁目59番地		
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 27 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者様と関わりが密であり、笑ったり・時には怒ったり、家庭的に利用者として介護者との関わりが行われている。食事は冷凍食品等はいっさい使わず、利用者さんは筍の食材を使った料理を楽しみに、調理の様子をみている。四季の野菜なども多く使っているためか、下剤などにたよらず自然排便を促されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小牛田駅から西へ5分ほど歩くと川沿いに開設7年目の「よつば荘」がある。震災で崩れた外壁や内装が修繕されて、新装されて明るい外観になったところである。入居者は震災の影響を受けることなく平穏に過ごしている。職員が入居者と家族の思いを受けとめて、どんな時も寄り添う介護を心掛け信頼し合う関係づくりを大切にしていることが、看取りの後に「よつば荘に入ってよかった」と家族が言った感謝の言葉からもうかがえる。
前年に課題となった「入居者・家族が意見・要望を外部者(第三者委員など)へも表せるよう文書に記載する」ことが実施されなかったのは残念である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 よつば 荘)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より理念を一部変更の予定であったが、検討中である。	2004年の開設時に掲げた法人の理念があり、ホームの方針を表現している。これを継続してきたが、文言が堅いので柔らかな表現にしたいと検討を進めてきたが実施には至っていない。	自らのケアを振り返ることでより良い介護へ繋ぐことができる。その際欠かせないのがケアの原点となる理念や目標である。ケアの振り返りをし理念の見直しをしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週の朝市などにスタッフと散歩がてら行ったり地域の夏祭りに出かける予定である。	地域住民が訪れて、歌や踊りを披露してくれる。近くの公園で開催される地域の夏祭りには毎年参加している。小学校児童が「ソーラン節」で慰問に来たり、近隣住民から頂き物をすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、利用者さんの近況報告や、情報交換をして話し合いをもっている。	メンバーには家族、入居者、区長、包括センター職員がいる。老人会での講演依頼、制度や施設の違いの説明などの要望が出されたり、地域や商店のイベント参加を薦められるなど、双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り合い随時取り組んでいる。また入居希望者さんなどの紹介をいただいている。	外部評価に調査に町担当職員も同席した。町からホームへ制度改正や各種研修について情報を提供している。地域包括支援センターでは職員の資質向上に向けて研修会などを開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、利用者さんの行動・所在を把握し極力拘束しないよう取り組んでいる。	天気が良い日は玄関や窓を開けている。ベッドを布団に変える工夫や入居間もない入居者の帰宅したい気持ちに向き合い、思いを受け入れ、寄り添うことを重ね信頼関係を築くことで拘束のないケアができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで話し合い、言葉づかい等にきをつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後のミーティングで資料をもとに学ぶ機会をもつ予定有り		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	おこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話などで、話しやすい雰囲気の中で機会をもうけている。	家族の来訪時に入居者の様子を伝えているが要望はない。家庭の相談にのることもある。外部への相談窓口として市担当課の電話番号の記載がなく、第三者委員を設置しているが家族への周知が行われていない。	前年課題となった「外部者の相談窓口を明記する」が実施されていない。直接は言い難いこともあることを理解し、家族の意見・要望を第三者委員に表せることを説明していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで話し合い機会を設けている。	勤務時間の変更について意見が出され、話し合って全面見直しをしたり、オムツの当て方や食事を増進させるアイデアが出され取り入れるなど、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談などを通じて意見交換し、より良い職場環境につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアをとおしてすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題として検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり、和やかな雰囲気の中で話し、思っていることを話せる機会をもてている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時など家族のかたと個別に話しあえる機会をつくり、より良い関係で接していけるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握しニーズを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を和らげ安心して暮らせるように、利用者さんとかかわりを持ち接していけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のおかれている、環境や状況をふまえて関わりをもてるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で対応、また、よつば新聞の発行については引き続き検討。	入居者が家族と電話でつながる支援や、馴染みの理美容師に訪問してもらい散髪もしている。朝市に行くなど入居後も継続して馴染みの支援を行なっている。よつば新聞の再発行に取り組みたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間スムーズにいけない場合、個別に互いの話しを聞きながら、プライドを傷つけないようにサポートし、歩みよれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービスを利用していた、家族の方が行事、他 ホームに来て交流もてている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にともない本人の思いや考えを重視し、プランに反映していけるように検討している。	会話の中から、話題の表面にかくれた入居者の心情を読み取るようにしている。会話と観察で入居者自身をよく知る事を重要と考え、「ここで暮らしたい」「あれが食べたい」などへの適切な対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から情報収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態の変化を観察し現状にあったケアが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に近況報告し、本人の思いを引き出しながら、定期的にモニタリングしつつ作成している。	入居者の自分で食べたいという思いや自力歩行を継続したい思いを計画に活かし、その実現に必要な支援を話し合い、実施している。実施ノート(支援経過記録)の分析や3ヶ月毎のモニタリングも反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を、日々記録し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの日々の変化にあわせ、その状況により、対応出来るように、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の力を引き出せるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の状態を把握しているスタッフが付き添い受診する機会も多く、直接、利用者の主治医と関わっている。受診の報告をしている。	全ての入居者が入居前からのかかりつけ医を受診することができる。受診後は電話にて家族に報告し、ケース記録に残している。管理者が看護師であり、変化を見極めた適切な受診ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいな事も報告し相談、指示受けしケアしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を密にして関係づくりをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合家族、主治医と今後について話し合いをもうけている。	これまでに看取りの経験がある。重度化による変化に応じて家族、主治医と何度も話し合いを持った。入居者と家族の意向を確認し、主治医から指示を受け、3者の連絡を密にすることで「よつば荘に入って良かった」と家族から感謝される対応ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度、救命救急訓練・火災訓練の実施おこなった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方々に協力お願いしている。また担架の準備等し、そなえている。	消防署立会いの下で年2回の訓練を行なった(内1回は夜間想定)。訓練後に避難経路として居室から直接出るアドバイスがあった。震災の教訓として備蓄の増量や入居者の誘導が具体的に見えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の要望や訴えに傾聴し、尊重し話し合える事が出来るように関係をたもっている。	折り紙、歌など入居者が好きなこと、得意なことができています。食物や服装など入居者自身に判断・選択してもらうことで自己実現を図っている。言葉遣いには配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に信頼していただけるような関係を保てるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンを把握し、それにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望により理・美容の利用や身だしなみに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、日々3食について、手づくりし、また個人の身体状況に合わせて提供している。利用者と一緒にこなすことは、むずかしい状況である	入居者は調理の下ごしらえなどのできることをしている。食材の調達、献立、調理は職員が行なう。「美味しいものを食べた笑顔を見るのが大好き」と職員の顔がほころんでいた。おやつ「トマトシャーベット」に会話が弾んだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人ごとにバランスをとっており、水分量は摂取毎に記録し確保できるようにすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては起床時・就寝時に行っており個別に、毎食後 自主的におこなっている利用者さんもいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時声がけにより一部介助でトイレでの排泄をすすめている。	水分と排泄を記録しパターンを把握、個別の誘導をしている。水分や野菜、乳製品で排便を促し、歩行困難者もトイレで排泄できるよう支援している。適切な支援でオムツからリハパンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便などの把握によりヨーグルト・冷・温牛乳野菜の摂取すすめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴、身体状況にあわせておこなっている。	入浴前には体温・血圧を測って入居者の状態を把握し、シャワー浴にするなどの判断をしている。入浴後の変化を考慮して午前中に入浴している。冬季には脱衣所を暖めるなど入浴しやすい環境に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンを把握し、それにそって支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの処方箋をファイルに綴り確認できるようにし、服薬による変化の把握をスタッフ間で申しおくりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1度、民謡教室・行事行い気分転換につとめている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、スタッフ付き添い衣類の購入したりしている。また家族の方と外出の機会がもてるように支援している	天気や入居者の状態が良好なときを見て、近くの公園まで散歩をする。歩行に不安のある入居者の自力歩行をゆっくり支援している。家族との外出では実家の墓参など個々の満足を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては基本的はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	震災後、外壁・内装の修繕がほぼ終わったが現在、工夫している段階である。	震災後、職員の「リビングの壁が寂しい」との意見から装飾について話し合っている。温・湿時計を各所に設置して体感だけでなく数値で確認し、熱中症や脱水症に気をつけている。入居者の希望で昔の歌謡曲を流すなど居心地良い空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室に訪室したり、リビングで過ごす等、各自思うようにされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの設置など環境を整え各個人の居室の整理整頓に心がけ工夫していきたい。	ベッドを止めて布団にするなど安全や習慣に配慮している。入居者は居室への拘りや関心が薄い。今後、入居者の個性を表現した、その人らしい部屋作りをしたいと考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の自力移動の安全をはかり廊下・トイレにバーを設置、各室に時計・カレンダー・湿温度計を備えている。		